

壬生町がアスベスト反対の会に補助金

2007年09月18日

【壬生】壬生乙にアスベスト（石綿）廃棄物の中間処理施設建設が計画されている問題で、同町は地元住民で組織する「藤井六自治会アスベスト施設建設反対の会」（布施木善作代表）に、「活動費」として三十万円を助成する方針を固めた。十八日に開会する定例町議会に補正予算案を提出する。反対署名などが全町的に広がりつつあることなどから、助成の方針を打ち出した。

（下野新聞）

壬生町が廃棄物処理施設反対の会に補助金

2007年09月19日

壬生町に産業廃棄物のアスベスト（石綿）を熔融処理する民間の中間処理施設の建設が計画されている問題で、同町は18日、建設に反対する地元の住民団体に対し、活動費として補助金30万円を支出する異例の措置を決めた。

18日の定例町議会で補助金を盛り込んだ補正予算案を提案、即日可決された。

町保険環境課などによると、計画では、大平町の民間業者が同町壬生乙の工業専用地域に、石綿を含む産廃を高温で溶かす炉を建設する。最大処理能力は日量24トン（24時間操業）で、業者は環境省が06年に創設した「無害化処理認定制度」の活用を申請する見通しだ。

これに対し、周辺住民らでつくる「藤井6自治会アスベスト処理施設建設反対の会」（布施木善作代表）は、建設予定地の周辺にはすでに12の産廃処理施設が稼働中であり、これ以上の環境・健康への不安は耐えられないとして、建設に反対するよう町に要望。町議会での反対意見書採択や、全自治会での反対署名活動などをふまえ、町は「公益的な活動に取り組む団体」として補助を決めたという。

「反対の会」では、補助金は看板の作製や国、県に対する要請活動などに使う予定という。

産廃処理施設に対する反対運動への補助金について、県市町村課は「こうした例は聞いたことがない」としている。

（朝日新聞）